

## 「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 「信州の山の保全と活用」

日 時 平成27年2月15日（日） 午前10時から正午まで

場 所 長野市東部文化ホール（長野市小島）

### 目 次

1 開会	．．．．．	P 2
2 意見交換	．．．．．	P 3
3 知事 結びのあいさつ	．．．．．	P 20
4 閉会	．．．．．	P 21

進行役 鈴木啓助氏（信州大学教授 長野県「山の日」検討懇話会座長）

話題提供者 寺島純子氏（有限会社オフィスエム代表）

〃 笹谷秀光氏（株式会社伊藤園常務執行役員）

〃 ルイジ・フィノキアーロ氏（オーストリア大使館上席商務官）

阿部守一（長野県知事）

この県政タウンミーティングは、「信州山岳環境魅力発信フォーラム」の第1部トークセッションと併せて開催しました。

## 1 開 会

### 【総合司会】

お待たせいたしました。それではただいまから、第1部後半になりますトークセッションを始めさせていただきますと思います。

このトークセッションでは、「信州の山の保全と活用」、こちらをテーマに意見交換をしていただきます。長野県の貴重な自然環境の骨格を成す信州の山に感謝し、山岳環境を守り、育て、活かしながらその恩恵を次の世代に引き継ぐために、また信州の山の魅力を再認識し、より豊かな山岳環境とするために皆様からご提言をいただきたいと思っております。

また、このトークセッションは、知事と県民の皆さんがテーマに基づいて意見交換を行う「県政タウンミーティング」も兼ねております。会場の皆様からもご意見やご提案をいただきながら進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞ皆さん、ご協力をお願いいたします。

それでは、ここでトークセッションにご参加いただきますゲストの皆さんにご登壇いただきます。どうぞ皆さん、拍手でお迎えくださいませ。どうぞご登壇ください、お願いいたします。それぞれお名前が書かれたお席にお進みいただきたいと思っております。

お忙しい中、今日は有識者の皆さんにお集まりいただいております。皆様のお手元のプログラムにも、ご登壇いただいた皆様方のプロフィールが掲載されておりますので、是非ご覧いただきながらお耳を傾けていただければと思います。

ではまず、皆様方をご紹介させていただきます。

進行役を務めていただきますのは、先ほどもご登場いただきました、向かって左手にいらっしゃいます、信州大学理学部教授の鈴木啓助先生でございます。鈴木先生は、長野県山の日検討懇話会の座長を務められ、「信州 山の日」制定に携わっていただきました。今日はよろしくをお願いいたします。ありがとうございます。

続きましては皆様の向かって一番右手におられます、オフィスエム代表の寺島純子様でございます。寺島様は書籍出版会社の代表として山や自然関係のブックレート作成に携われ、信州の自然や県内各地の様々な取組について、幅広い見識をお持ちの中でいらっしゃいます。寺島様、よろしくをお願いいたします。

そして、お隣にいらっしゃる方、「お〜いお茶」でおなじみの、株式会社伊藤園から笹谷秀光様でございます。笹谷様は、伊藤園の社会貢献活動の担当部長として活躍をされていらっしゃる方なのですが、伊藤園では、「お茶で信州を美しく」というキャンペーンの一環で、今年度から長野県内の環境保全活動にご支援をいただいております。今日はよろしくをお願いいたします。

続きましてお隣の方です。オーストリア大使館商務部上席商務官のルイジ・フィノキアーロ様でございます。オーストリアは山岳高原観光の先進地なんですけれども、林業の盛んな国としても知られております。長野県と信州大学との交流が進められているんですね。フィノキアーロ様は、森のエネルギーの関係をはじめ、幅広い分野でオーストリアと日本との貿易や交流に尽力されていらっしゃる方でございます。よろしくをお願いいたします。

そして主催者を代表いたしまして、阿部守一長野県知事でございます。知事、引き続きよろ

しくお願いいたします。

なお、本日の意見交換の内容なのですが、後日、長野県ホームページで公開をさせていただくことになっております。皆様からいただきましたご発言につきましては、個人のお名前を伏せた形で公開いたしますので、どうぞ皆様、あらかじめご承知おきをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、ここからの先の進行は鈴木先生をお願いしたいと思います。マイクをお渡しいたします。

## 2 意見交換

### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

改めまして、鈴木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほどもオトメ☆コーポレーションの皆さんが、まさに去年の7月には全く山のことを知らなかった彼女らが、夏の間、そしてここまでの半年間で山のことをたくさん知ることができました。まさに体験することもできたわけです。

山の日の制定の趣旨は、山の恵みに感謝して、それを次世代に引き継いでいくということが大きな趣旨ということでございますけれども、まさにまず最初に知るということが大事で、そうすれば、ではどうすればいいかということが皆さんの心の中からも湧き出てくるということでございますので、是非いろいろな立場の方から今日は山の魅力、そしてどんな活動をされているかということをお聞きしながら、皆さんと一緒に山のことを考え、そしてどうすれば次の世代にこの素晴らしい山の自然を引き継いでいけるかということを考えていきたいと思えます。

それでまず最初に、実は寺島さん、先ほど紹介もございましたけれども、出版に携わっておられるということで、実は信州大学の我々のつたない文章もたくさん本にまとめていただいて出版いただいております。

そんなこともあって、この寺島さんから出版、非常に今、出版業界大変だとは思いますがけれども、その大変な中でどんな思いを込めて、我々のような山に関するようなこともまとめていただいて、皆さんにお伝えていただいているのかというあたりからちょっとお話しをお聞きしたいと思います。寺島さん、よろしくお願いいたします。

### 【有限会社オフィスエム代表 寺島純子氏】

皆さん、こんにちは。オトメ☆コーポレーションみたいにキャピキャピにかわいいわけではなく、このおばさんとおじさんで申し訳ないんですけども、私も頑張って発言したいと思います。

実はオフィスエムという小さい出版社をもう20年以上もやっております。私の住んでいるところは飯綱高原、標高1,200メートル弱ぐらいのところ、今朝来るときも非常に大変、雪を掘り出して車を動かしてきたという、もう何でこんなときに雪降るのというぐらい悔しかった

んですけれども。何でそんな厳しいところに住んでいるのかと、26年住んでいるんですけれども、そういうときがあっても、それを補ってあまりある自然の素晴らしさというのがあるからだなということを、今日、雪の中を車を走らせながら考えておりました。

鈴木先生が信州大学の山岳科学総合研究所の所長をされていたときの事業の一つに、ブックレットのシリーズを10冊出してきました。それは、最初に先生と話したときには、もう信州の宝は山しかないんじゃないかと。山に係わって集まってきている素晴らしい科学者たちがいっぱいいるんですね。「山」というキーワードでみんな集まってきてしまう。その様々な学部を超えて山に係わる研究をされている、その魅力の一端を、研究者になってしまうと実は何か入っていけない、すごいハードルの高い難しいものになってしまうので、聞いていくと、その世界に入っていくって取り掛かりというのは、みんな本当にピュアな素朴なきっかけだったりするんですね。

鈴木先生は雪氷学をやっているらしいです。雪氷学で南極まで行くという大変な研究と思うんですけれども、きっかけを聞いたら、雪は天からの手紙であるという、何か中谷宇吉郎先生のその言葉に出会ったことがきっかけで雪の世界に入っていくと。そういう少年の気持ちというんですか、自然環境に対してのそういう気持ちというのは、実はそこに係わらないまま大人になってしまっていて文系になってしまっている子もいると思うんですけれども、本当は受験勉強がなかったら自然というのはすごくおもしろいものである。自然環境の中には、テレビゲームや今の子どもたちがスマホとかをいじっている、そういうものよりも全然素晴らしい世界がそこにあるんだということをやっぱ大人が伝えていかなければと、そんなことも含めて、そのブックレットで、本当にささやかな1,000円ぐらいの本を出してきたんですけれども。

実は自然というのは、人間も自然の一部であって、その自然の中にまだ未解決の部分が自然の中にあるんだけど、人間がまだ解明していない分野がいっぱいある、そういうようなすごく大きな世界が自然なんだということを、私は本づくりを通して様々な先生から教わってきました。それを伝えていくということが私たちの責任かなと思います。

信州には本当に山だけはある。ほかの、東京だとか大きな都会に比べたら劣っているところもあるかもしれないんですが、それが何ぼのもんだろうという、やっぱ素晴らしい自然、川がある、里山がある、そこに営みがある。そして、日本を代表するアルプスが3つもある。そんな信州だからこそできることがあるんじゃないかなとずっと思って本づくりをやってきました。

だから、何かほかの県では真似のできないこと、信州だからできることということを実は自分たちは、その足もとにいる責任を感じなくちゃいけないんじゃないかなと思っております。

#### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

ありがとうございます。ブックレット、まだ受け取っておられない方もたくさんいると思いますけれども、実は10冊をとり合わせると、非常にわかりやすく書いたつもりですし、確かに見ても、割とじゃなく、かなりわかりやすいですね。ですから、皆さん、是非本屋さんにも並んでいると思いますので、お手にとっていただければと思います。

**【有限会社オフィスエム代表 寺島純子氏】**

今日、ロビーで売っているんです。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

では、是非、また、よろしく申し上げます。

それでは、寺島さん、山岳だけではなくていろいろな、要するに自然に関する、里山とか、我々の身近な自然についてもいろいろ本を出されていますよね。もう少し、その辺もお話しいただきませんか。

**【有限会社オフィスエム代表 寺島純子氏】**

そうですね、いろいろな本を出しているんですが、みんなやっぱり何となく山にも係わってしまうんですが、例えば料理の本とか、おばちゃんたちがずっと伝えてきた料理というのほとんど、山の恵みとか、あるいは厳しい冬をどうやって保存して、漬物とか保存食をつくっていくとか、そういったものも非常にこの自然環境と係わっている。あるいは、私、今興味を持っている農的生活、農業というものが祭りをつくり、コミュニティをつくり、地域生活をつくっているという、その大きな自然との融合の中でできている私たちの暮らしというのをもう一度、やっぱり見直していかなくてはいけないと、その中に、実は最先端なものがあるのではないかと思っています。

先生にも教わった、その「雪んこの旅」、つくったじゃないですか、絵本もつくっているんです、鈴木先生は。それはみんながもっと自然のことを語ってほしいし、普通の毎日の暮らしの中に、例えば飯山線、大糸線、様々なローカル線も自然との戦いだったりするんです。でも、そこに魅力があったりする。このごんごんごん雪が降る中をバートと走っていく電車で魅せられて、バツと撮っている人もいます。新幹線も来て、もちろん最先端なこともあるんですけども、それともう一つ忘れてはいけない、昔から信州にある、何にも飾っていないんだけど、何か人工的なものを加えているわけではないんだけど素晴らしいという、農業景観の美しさとか、やっぱり農家の人たちには美意識というのがあるんですね。林業をやっている人にも美意識があるんです。薪の積み方一つでも美しく積もうとする、そういったものがもしかしたら世界的な財産なのではないかなと。あとでちょっと、フィノキア一ロさんに聞いてみたいんですけども。そういう、普通に、ごく普通にやっている営みの中に、実はかけがえのないものがいっぱいあると、年を追うごとに思っているんですけども、そういうものを大事に伝えていく、それが大事だなと思います。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

実は「恵み」という言葉で簡単に言いますが、実はあまりにも恵まれているものから、長野県の人には山の恵みとか、雪の恵みとか、全然気にしないんですよ。今、食べ物の話もございましたけれども、山に降る雪というのは、今日もたくさん降りましたが、あれ嫌だなと思うかもしれませんが、あれがあるから、春先、農作業ができるし、おいしい水がとれるし、おいしいお酒もつくれるわけですよ。

ですから、是非、雪も嫌がらずに、最近は雪は「利用する」という目で非常にエネルギーとしても大事なものですし、今、言ったのは水の資源としても大事なものですから、是非山に降る雪も大事にしていだければと、ちょっと手前みそですけれども、お願いできればと思います。

笹谷さんとは、まさにこちらは、これも自然の恵みの一つですけれども、山との関係で何か伊藤園さんの、活動ということではなくて、何か思いはございますか。

### 【株式会社伊藤園常務執行役員 笹谷秀光氏】

皆さん、こんにちは、伊藤園の笹谷です。私は企業の社会的責任ということを担当しているポジションですが、今日は阿部知事、大変いい企画のところを設定いただきまして、大変ありがとうございます。また、鈴木先生からいろいろなやりとりを楽しみにまいりました。

私は信州との縁は結構深くて、毎年軽井沢に来て、30年ぐらい毎年のように来ていまして、冬には斑尾高原とか、志賀高原でスキーを楽しんだりしていましたが、この30年間ぐらいですごく変わりましたね。もう長野オリンピックということもありましたが、それ以上にいろいろな角度のことが、変化が激しくなっていると思います。でも変わらないのが信州の山、僕、大好きなんですね。だから、今、お話しありましたが、魅力たっぷりだなと思って来ました。

いろいろ考えますと、私もいろいろな経験をしてきましたが、2013年、2014年は、大変日本人にとって大事な年になりました。富士山、和食、富岡製糸場、手漉き和紙、これ全てユネスコに文化遺産として認められた年なんですね。そして、2020東京ということで、東京五輪、オリンピックが誘致が決まったと、こう非常に歴史に残る2013、2014年になったわけがあります。

そういうふうに見ますと、今はオリンピックの後を目指して、ビヨンド2020にレガシイと言っていますが、オリンピックの遺産をどのような日本で残していくのかという議論になっています。そのときにまさに、昨日の日経新聞に知事も登壇されている記事もありましたが、まさにオリンピックの先輩で、この信州の中にオリンピックを契機にいろいろな遺産を残してこられた、この長野県民の知恵と学びが生きているのではないかと考えて来ました。

雪も、私、今の先生のお話しですが、これ見方、物のやっぱりいろいろな見方だと思いますので、見方を変えますと、やはり日本にはいいものがいっぱいある。それは物であり、やり方であり、伝統であり、いろいろないいものがあるんですが、それをクールジャパンとして世界に発信する時代になっているわけですが、このクールジャパンというのは、私は環境省でクールビズというのを担当したことがあるんですが、クールというのは涼しいという意味じゃなくて、カッコいいという意味なんですね。ですから、私は信州の魅力の中に、カッコいいもの、世界に伝えるべきもの、いっぱいあると思っていますので、あとはいかにどうやって伝えていくかということがテーマだと思います。

私は今の時代、みんなで考えて、持続可能性といいますね、社会の環境を、これ結構難しい単語だと思うんですが、私流に言えば、世のため、人のため、自分のため、そして子孫のためというラインなんですね。明日のことを考える、子孫のためという世代軸を加えていきたい。

先ほど山ガールの認定もありまして、ああいう若者が牽引して魅力をバツと発信する。これ

素晴らしい取組で、そこに気づきが生まれて、なるほど、今日はいいことを学んだなと思って皆さんが帰る。私は、今日は皆さんとともに山について、また自然について是非勉強したいと思ってまいりました。

ちなみに、私、山は非常に懐かしくて、関東森林管理局というのが国有林の管理でありまして、そこの仕事をしていたときに、北は佐渡のトキの森から、南は小笠原の方まで国有林がありまして、もう森という森をいろいろ見て回りまして、今は森林の管理というのがありまして、木材の生産だけではなくて、営林局とっていたのが森林管理局に切りかわって、いろいろ利活用も考える時代になっています。その経験もありまして、県土の約8割を占める、森林が占めているという、こういう非常に有数のこの森林県の中で、このことを考えに考えて、非常に楽しみにまいりましたので、また私の経験なり、学びを持って帰りたいと思っています。よろしくをお願いします。

#### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

ありがとうございます。ではフィノキアローさん、日本にもうだいぶ長くお住みらしいですけども、信州の山に登られたとかで、どんな魅力があるかとか、ちょっと経験のことをお話いただけますか。

#### 【オーストリア大使館上席商務官 ルイジ・フィノキアロー氏】

皆さん、こんにちは。私がさっきご紹介あずかりましたように、オーストリアの中で、様々、バイオマス産業、エネルギー、林業の担当をしております、ちょうど3年前に、森からエネルギー創出のシンポジウムで基調講演をして、終わってから、何か巻き込まれて、それは長野県の職員だったんですけども、これは是非一緒にやりましょうとおっしゃっていて、私が林業の仕事、林業関係と環境の関係、そういう関係がただの仕事だけじゃなくて、ビジネスだけじゃなくて、やはり使命感を持ってない人は無理ですから、これは本当に9時から5時までの仕事ではないので、本当に心を込めるという仕事なんですけれども、だから、ちょっとテイスティングしまして、いつもちょっと厳しくしたんですけども。

私が、長野県、どうやって、もちろんいろいろな県とか、いろいろな市町村ともつき合っていますので、なぜか長野県との関係が一番深いのは、やっぱりこのチームは素晴らしいんですよ。これはゴマすりしたくないので、私、いろいろな職場の人間とも会っていますので、こちらの長野県のそれぞれの職員と担当者は、本当にやる気があるから、だから私にとって活動しやすいんですよ。

もちろんご存じのように、この革新的な活動は非常に難しいので、本当に今までやったことから、やっぱり全然違う方向に行かなければなりませんので、これはお互いを信頼しながらするべき活動なんです。

それで、今、何か一緒にいけば温泉に行ったり、勉強しに行ったりとか、こちらに様々なイベントをしたりとか、また、阿部知事は様々な官僚とも会うことになると思うんですけども、オーストリアと長野県は関連が深いということです。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

ありがとうございます。知事も、フィノキア一ロさんから職員がすごく熱いと、山に対する思いが熱いと、知事も非常に熱いなという感想ですけれども、知事、いかがですか。

**【長野県知事 阿部守一】**

ありがとうございます。まずオーストリアとの関係は、今、林業関係を中心にいろいろ交流させていただいていますけれども、是非今年は私もお伺いをして、是非オーストリアの、やっぱり山岳観光、林業、そうしたものは我々たくさん学ぶものがあると思っていますので、是非フィノキア一ロさんには、またご協力いただければありがたいと思います。

寺島さん、笹谷さんからもいろいろお話しありましたが、山の日を制定しました。私は何で山の日をつくろうと思ったかというのは、かねてから山の日をつくろうかという議論はあったんですけれども、あまり進まなかった。私は長野県の知事になって、うちの県は「何とかの日」というのはほとんどないんですよ。東京は都民の日とかあるんですけれども、学校も休みになっているくらいですが、長野県は何もないなど。何もないのに、では長野県は何が一番価値として大事なのかと。県民の皆さんが、これはいいなと思ってもらえる日は何なのかなと考えたときには、やっぱり私は「山」だと思って、それで山の日を制定させてもらいました。

山、今もいろいろお話しありましたが、いろいろな観点が実はあると思っていますので、県も今日は環境部主催のフォーラムですけれども、環境部だけじゃなくて、県庁を挙げて横断的にいろいろなことをやっています。

まず一つは、先ほど寺島さんのお話しにありましたけれども、やっぱり自然、やっぱり子どもたちにわかってもらわなければいけないと思います。自然体系を教育の中にもっと取り入れていかなければいけないと思っていますし、今年度中、もう今2月ですが、もう1か月ちょっとしかないですけれども、今年度中には、信州型の自然保育の認定制度というのをつくろうと思っています。長野県は、実は「森のようちえん」とか、あるいは、いわゆる認証されている保育園でも、結構山の中で子どもたちを育てようという取組を一生懸命やっている人たちが多いです。

そういうところで子供たちを育てたいからということで移住されている方も結構多いですけれども、結構、何か、ではどういうレベル感なのかというのが結構ばらつきがあるので、一定の基準を設けて、安心してお入りいただいて、安全基準とか、あまり規制でがんじがらめにするつもりはないですけれども、そういうものを担保して、やっぱり子どもたちが、これ先ほどお話ししましたが、東京では絶対できない話ですから、やっていこうかなと思っていますし、あとはエネルギーですね。これもオーストリアに学ばなければいけないんですけれども、今までバイオマスエネルギー、ほとんど使ってきていなかった。昔は、薪や石炭がエネルギーの主力だったんですけれども、今はほとんど化石燃料に取って代わられて、ほとんど、海外からの輸入になっています。

是非、周りを見渡せば山ばかり、こんなにエネルギーがあるのに全く使おうとしないのはもったいないということで、例えばペレットストーブとか、薪ストーブみたいな家庭用の部



分の普及であるとか、あるいはもうちょっと進んで、今、信州F・POWERプロジェクトというのを塩尻で進めていますけれども、そこは木材加工施設とバイオマス発電施設と、併設型でつくっていかうというようなことで、エネルギーとしての活用ということも考えていますし、それから、やっぱり何といても長野県は観光です。観光は、今、「世界水準の山岳高原観光地づくり」ということで、新しく課も、山岳高原観光課というのをつくって、山と高原、これはやっぱり長野県の、他の県が真似できない強みだと思っていますので、そこをやっぱりしっかり整備することによって大勢の皆さんを、今や日本国内だけではなくて、海外から大勢の皆さん、お越しいただいていますから、そういう皆さんに長野県の自然を満喫してもらおうと。ただ登山の仕方とか、海外と日本は違うので、そういうところの注意喚起をしっかりとやっていきたいと思っています。

この間も日韓知事会議の時にその話をしながら、韓国は長野県みたいに高い山がほとんどないところですから、弾丸登山でもパッと行ってパッとおりて、しかも山小屋に着くのが夕方が当たり前みたいな国のようですから、そんな登り方をしてはだめだということをしつかり伝えながら、大勢の皆さんに長野県の山を楽しんでもらうようにしていきたいと取り組んでいます。

今、言ったような部分は活用の方面ですけれども、活用するだけではなくて、やっぱり守らなければいけないということで、自然環境の保全、それからさっきもちょっと言いましたけれども、登山道も、何とか山小屋関係者とか、山の関係者が一生懸命頑張ってもらっていますけれども、なかなかしっかりしたルールができていなかったわけです。来年度予算から山域ごとに、山の関係者、市町村、県、一緒に入って、山域デザインをつくって、やっぱりここの道はこういう整備をしていかうと、ここはもうこれ以上、手を加えなくていいんじゃないかというようなことを皆さんの議論の中でデザインをさせていただいて、そうした中で必要な登山道の整備については県もしっかりお金を出して、市町村と一緒に取り組んでいくということを進めていきたいと思っています。

伊藤園の皆さんにも、登山道整備をはじめ山岳環境の保全、大変ご支援いただいていますけれども、是非そうした部分、自然を守っていくという関係には大勢の皆さんの協力、そして特に企業の皆さんの協力もいただきながら進めていきたいと思っています。ちょっと長くなってすみません。

#### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

ありがとうございます。知事からはたくさんの課題と、それから長野県が今取り組んでいることについてご説明いただきました。

今日はパネラーの皆さんにも、山、登山の関係者がおられませんので、山に登るという方は、先ほどオトメ☆コーポレーションの皆さんの活動をまた思い出していただければということでございます。

それから、先ほどオトメ☆コーポレーションの皆さんの発言にも、要するに自然というのは非常に大事で、それを保全する。まさに人間も同じように自然の一部なんだという、非常に貴重な発言もありました。

次に、保全すると簡単にいいますけれども、生物多様性の問題が非常にたくさんあって、寺

島さんはもう自然はわかったことが多いのではないかとおっしゃいましたけれども、実は我々から言うと、わからないことの方が多いと、わからないことが多い中でも、最もわからないのは僕は生き物ではないかと思うんです。

例えば昆虫って、人間がこんなにたくさんいても、我々よりもずっと、桁違いに多いわけです。だから、その多い昆虫をわずかの人間がいくら調べたって全てのことがわかるわけがないんですが、それだけ自然というのは奥深いものだと思います。それを伝えるという意味では、寺島さん、そういう活動もされているわけですが。

実はここにある伊藤園のお茶なんですけど、先ほどちょっと笹谷さんからも簡単な説明がございましたけれども、実は伊藤園では、「お茶で何々をつくること」というキャンペーンをやっておられて、信州の場合には、「お茶で信州を美しく」ということで、実は非常に活発な保全活動をやっていたかと思っております。

次に笹谷さんにですけれども、その伊藤園としての環境保全の取組のご紹介をいただければと思いますけれども、よろしく願いいたします。

#### 【株式会社伊藤園常務執行役員 笹谷秀光氏】

どうもありがとうございます。今日のためにちょっとこの封入資料の中に、「お茶で信州を美しく」という、霧が峰の写真から始まるミニパンフレットをつくりましたので、ちょっとこれを手元に置いていただきながら。それから封入された中に、小さいんですが、鼻のあぶらとり紙というのがありまして、これは茶がらリサイクルでできたすぐれものですので、ちょっとこの二つを手元におきまして、今の鈴木先生からの難しい質問にトライアルしてみたいと思います。

生物多様性の保全といったときに、かなりややこしいですよ。それで専門的には3つに分かれていますね。生態系がいろいろな多様性がありますという話と、それから種の多様性ですね。つまり先生がやっていた、いろいろな昆虫もいるし、動物もいるし、鹿もいると、そういう種の多様性。それから遺伝子の多様性というのになりますと、もっと奥深いですね。非常に奥深い難しい概念だと思えますが、それをいかにわかりやすくみんなで理解していくかということが大事な中、先ほどの山ガールの体験説明というのは素晴らしいですね。あれで、ああなるほどなというふうになるわけです。自然の恵みというのはこういうことねとか、それから生活に密着にして関係するんだなというのがわかります。企業の場合は事業活動にどんなふうに関係あるかということが見えるわけです。そういうふうに見えるように、わかるように説明していくということが大事だと思うんですが。

私は、関東森林管理局にいたときに森林という、山を構成している森林というのは非常にわかりやすいと思うんですが、あれはまず木材の生産もありますね。それだけではなくて、治山治水という役割があります。それから水源の涵養、水資源ですね。それから景観の保持ということがすごく大事ですね、いい景色だなど。それから森林浴というものもあると思うんですが、心の癒し効果というのがあります。そうしますと、いろいろな企業との接点が出てくるわけです。治山治水の関係の企業の方も関係があるでしょうし、水源の関係をしている関係者も関係があります。それから景観についてもいろいろな努力をすることが関係ありますし、ツーリズム

的なところは、もちろん関係あります。そうしますと、産業的にはいろいろなところの企業の接点が出てくる、そういうふうに捉えるほうがわかりやすく、生物多様性という考えだとなかなか難しい部分があるなど思っています。

それで、私どものこの信州、「お茶で信州を美しく」キャンペーンを事例に、企業がどういうふうにご紹介してまいりますと、これ霧が峰の写真、素晴らしいですね。この写真は素晴らしいし、私も是非行ってみたいと思うんですが、これは自然だけではなくて、その歴史とか伝統とか文化とも絡んで、大事なわけでありまして、先ほどのいろいろな複雑な課題にも対処していかなければいけない。鹿の問題ですとか、外来生物というのもありますね。いろいろな難しい問題がある。

そこで伊藤園は、この「お〜いお茶」の飲料商品売上の一部を寄附をするという、長野県様に寄附するという作業だけではなくて、社員も一緒に活動に参画するというところで社員のモチベーションアップと、森は大変学びがあるだろうということがわかって、社員の活動の深みにつなげていくという効果があると見ています。

といいますのは、伊藤園は、下に「香り満開」というのが出ていますが、今、これ香り満開で、桜吹雪シリーズなんです、桜のパッケージなんです。これは「日本のお茶」、それから、「和」、こういうことを大事にしていきたいという思いのある流れの中で缶入りに、緑茶を缶に入れた缶入り緑茶というものの30周年記念だったんです。それ何か記念する方法はないかなということで、やっぱりお茶といえば日本、日本といえば桜、桜といえば山の代表、こういうことも含めましてパッケージで表現してみるということで、私の仕事の企業の社会的責任という角度からいいますと、これは企業としてのメッセージと意をお伝えする商品の顔なわけです。そういうふうにご利用させていただいたということです。

日本にはこのように四季折々の季節感とか、それから色彩感が育んできた独特の文化があると思います。それで今日はちょっと一つだけご紹介をしておきたいんですが、私、環境省で仕事をしていたときに、これいいなと思ったのは、「香り風景百選」というのがあるんですね。2001年に環境省が選定したんです。香りの風景というんです。これよく見たら、実は霧が峰の高原と風、これが指定されているんです。もう一つあるんです、長野県は。飯田りんご並木も指定されています。あの季節にサッと、レンゲツツジですとか、ニッコウキスゲの香りがフーッと来る。この香りを風景として見ているという、素晴らしい日本的な捉え方という、こういうものこそクールジャパンなんです。私、香り風景百選の中に、2つ、3つ長野県のものが入っている、すごくいいなと思いました。

1 ページめくっていただきますと伊藤園の取組の概括がありますので、サッと目配りいただきますと、「お客様第一主義」ということで振興させる企業ですが、左のほうに、フィルムバンドのようになっていますが、茶畑から茶殻まで、笑顔のバトンをリレーするという思いで、伊藤園に係わる人々と常に持続可能性の活動を展開していくということで、茶畑の部分は、茶産地育成事業となっていますし、茶殻の部分は、この茶殻のリサイクル商品をつくったりしていますし、消費段階から「お〜いお茶新俳句大賞」というのを25年にわたって続けているわけです。

そういう流れの中で、今、キーワードは持続可能な生産と消費、これが一つのキーワードだ

と思いますが、その実践に努力中です。右にありますように、環境にやさしい、人にやさしい、そして社会にやさしいという企業を目指す方向性を出していきまして、右下にあります、私はやはり今の世の中、人と人とのつながりで共有価値を増幅していく、こういう時代だと思っております。ここに書いていますね、消費者・地域の方々、メディア、NPO・NGO、自治体、企業、大学と、こういう関係者が人と人がつながって相互に補完し合いながら物事を解決していくということが重要な時代。なぜかという、物事が複雑になったからです。

霧が峰を守ろうという、自然の保護の調査はもちろん必要です。鈴木先生のいろいろな調査研究が必要ですが、コミュニティの理解を得て、皆さん参加してくださいということも必要です。鹿が出たら鹿をどうするのか、鹿の対応をどうするのか、ジビエとありますが、そう簡単ではないんですね。いろいろな工夫を食べ物につないでいく工夫が要ります。

それから何といっても、市民の参画は理解と協力がないとできません。利用と活用というのは非常に難しい複雑な課題があるわけです。ですから、ここにありますような、みんながそろって学びを吸収する。右にありますように、学びを3つ広げたい。いいことは地理的に広げていく。いいことは時間的に広げて、単発ではなくて継続する。それから何といっても情報を広げるということがすごく大事で、これが最も難しいんですね。それが今回のこの信州山岳環境魅力発信フォーラム、これ素晴らしいんですね。山の日というのを決めて、ここにみんなが集まって考えようよという、このフォーラムをつくっておられる阿部知事のリーダーシップというのは素晴らしいと思うんです。そういう場があると、みんなで学んで帰ります。こういう場が今ほど求められているものはない。私はこれをパートナーシップの時代になったのではないかと理解をしています。

そういう時代に企業は、ではどう生きるかという、右下にあります3つなんです。みんなで学んで、社会対応力をまずつけましょう。企業も社会の接点を考えましょう。ウィン・ウィン関係構築、企業ですからやはり、皆様にもいいけれども伊藤園にもいいという構造をつくりましょう。3番目にそういうことを理解できるグローバル時代の柔軟な発想ができる人材を育てましょうと、この3つが大事だと私は思って今、活動しています。

最後のページに、ちょっとこの日のための思いを込めて、「パートナーシップの時代」という、環境新聞に私のコラムがあるものですから、そこに考え方をまとめて、オトメ挑戦「信州山ガール」、これ素晴らしい取組だということと、これがプラットフォームとしてどんどん育っていったら、プラットフォームというのはみんなでの活動する学びの場と共通の活動基盤、これが育っていったら、今、まさに問われている、「まち・ひと・仕事創生」、これの先駆事例に長野県の方で育っていただけないかなと思っております。

私は、まず社会活動のポイントは3つだと思っております。こういう「しあわせ信州創造プラン」のようなプラン、「いいね」という共感、私、持ちました。まず共感ですね。2番目に、これどうしてそういうことをされているのかというのが、知事がホームページで説明されていて話を聞きますと、論理で内容を語られております。そんなにいいのなら、継続して「またね」となるんですね。やはり世の中、「いいね」があるほど「またね」と、このサイクルができれば、いろいろな活動が深みを持ってくると思っております。どうもありがとうございます。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

どうもありがとうございます。今、笹谷さんから伊藤園の取組をご紹介いただきました。

知事にもお聞きしたいんですが、長野県でも、生物多様性の保全に関する事業を来年度からやられるということと、それから、今、笹谷さんからもお話しがありましたけれども、ジビエの問題もちょっと織り交ぜながら、生物多様性のことについて県の施策についてご説明いただければと思います。

**【長野県知事 阿部守一】**

まず長野県、本当に様々な生物の種が存在している、本当に世界の中でも有数の地域だと思っています。

チョウの種類も結構あって、149種類ということで、この豊かな自然環境を守ると同時に生物多様性、しっかり次の世代に受け継いでいかなければいけないと思います。そのときにやっぱり、私は、今、笹谷さんにおっしゃっていただいたように、パートナーシップが一番大事だと思っています。

パートナーシップというのはいろいろな観点があると思いますが、私は県政の、行政財政改革方針というのをつくっているんですけども。ちょっと改革とは全く違う観点かもしれないんですけども、実は普通の行政財政改革ということの柱は、おそらく最初は県組織の見直しだとか、県の職員を削減しますとか、そういうことを書いてあると思うんですけども。私はそんなじゃだめだということで、県民参加と協働というのを実は一番最初の柱に入れていきます。県政を進めていく上で、もちろん私たち行政が責任を持ってやって、しかも行政がほぼ全面的に出てやらなければいけない仕事もいっぱいあります。例えば生活保護みたいな話は、これは民間の人たちとのパートナーシップでみたいな話はなかなかできない部分がありますけれども。その反面、やはりもっともって県民の皆さんに参加をしてもらって、一緒になって取り組まなければいけない課題も様々あります。その一番大きなものが実はこの環境の保全であったり、生物多様性の保全であります。

なぜかという、さっき、例えばチョウの種類も100何十種類ありますというときに、県の職員が一々、いろいろな地域でどうだこうだやっていたら、そんなに高コストのやり方はありませんし、まず生物の話というのは長期的なスパンでやらなければいけないですから、人事異動がある県の職員が一生懸命そんなことをやったって、県民の皆さんから見たら、何をやっているんだという話に多分なるんだろうなと思います。

そういう意味で、継続性であるとか、あるいはいろいろな地域性だとか、そういうことを考えたときに、まずやっぱり県民の皆さんと一緒に参加してもらわなければいけないと。そういう意味で、ネットワークをつくっている、この今日の資料の中に「信州生物多様性ネットきずな」という設立趣旨が入っていますけれども。行政ももちろんやらなければいけないことはしっかりやりますけれども、やっぱりそれぞれの地域で、あるいはそれぞれの分野で知見を持っている人たちとの、本当に自然を守ろうと思って実はやっている大勢いらっしゃいますから、そういう人たちとまずしっかりネットワークをつくって、パートナーシップを組んでいきたいと思っています。

それからもう一つは、やはり企業で、笹谷さんにまさにおっしゃっていただいたとおりでございますし、私はずっと公務員ですから、企業の皆さんの発想というのを内側から感じたことはないんですが、今、いろいろな企業の方々と話していると、特に例えば長野県の企業というのは、利益だけ求められればいいと思っている企業はそんなに、今ないんじゃないかと思えますけれども。いや、うちの会社は地域と一緒に発展しているんだと、うちはやっぱり従業員のためにやっているんだという、そういう企業が多くて、そういう中でやっぱり長野県に存在している価値、あるいは日本というすぐれた自然環境を持っているところに存在している企業の皆さんは、やっぱり日本、あるいは長野県の素晴らしい自然環境をちゃんと引き継がなければいけないという問題意識を持っていらっしゃる方というのは非常に多くいらっしゃいます。

そういう皆さんとパートナーシップをしっかりと組んで、資金的なこと、本当にいろいろな企業の皆さんからこの自然環境、信州の自然環境を守ろうということでご寄附いただいたりしますし、先ほどの伊藤園の取組のように、それだけではなくて、やっぱり社員と一緒に取組もうと。長野県はこれまで「森の里親」という制度でやってきていますけれども、そういうことにご協力いただいている企業の皆様、本当に大勢います。そういう意味で、この生物多様性を守っていくという上で、企業、あるいは県民の皆さんとパートナーシップをしっかりと築く中で取り組んでいきたいと思っています。

そういう意味で、実は来年度事業で、「人と生き物パートナーシップ推進事業」というのを新しく取り組んでいこうと思っています。今、申し上げたようなことをこれまで以上にしっかり進めていきたいと。そのことによって長野県の生物多様性、そして自然環境を守っていききたいと思えます。これは、県民の皆様にも是非協力をいただきたいと思います。以上です。

#### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

生物多様性の問題という、今日の午後も本当に専門の先生方にご協力いただいていますので、是非午後の部も皆さん、ご覧いただければと思います。

大分時間も押し迫ってまいりましたけれども、先ほどから皆さんおっしゃるのは、信州、今、山しかないと思います。山がたくさんあるということと、それから確かに山というのは観光資源としても非常に大事なものです。おそらくその観光資源というのは、その保全という、なかなかこれうまく両立しなければだめなんですよね。観光、観光といってもだめだし、保全、保全といってもだめだし、うまく保全と観光が両立するように進めれば、素晴らしい長野県になるのではないかと思います。

そういう意味では、山岳観光の先進国というやはりオーストリアで、今日もそのためにフィノキアロさんにおいでいただいていますので、その先輩から、まさに山岳をどう生かしているかというあたりをお教えいただければと思います。よろしくお願ひします。

#### 【オーストリア大使館上席商務官 ルイジ・フィノキアロ氏】

ありがとうございます。まずは、オーストリアの森林法により、森林の、林業の環境へのアプローチは多面的であるんです。これが、さっきいろいろな素晴らしい話を聞かせていただいたのが、オーストリアでは法律になっています。ということは、オーストリアの森の林業の山

が同時にリクリエーションファンクションを大事にする、もちろん保護と保護域がわかっていますから、もちろん産業の面、当然のことながら環境もよくわかるから、いい空気も出るし、いい水もつくれるしという感じなんですけれども。

その中でやはり山、林業、環境、景色、財産だと思っています。そういった意味では環境保護だけではなくて、それはもちろん空気を汚すというのは、たくさんの企業をつくれれば、当然のことながら水とほこり、汚い汚れが出ますので、それだけじゃなくて、目に見える景色も守らなくてはいけないんです。

先ほど素晴らしい画像を見せてくださったので、これはもちろん一つの見方で、確かにカメラの後ろはまた事実は違うとみんなわかっていますので、技を使わずに本当に自分が、本物の目のこういった感じの景色を見せてほしいと。そういうために、もちろん仕方がないという感覚じゃなくて、もちろん醜いコンクリート電源マストとか電線とか、いろいろなコンビニとか、というところをどうすればいいのか。やっぱりこれは仕方がないと考えてのではなくて、もちろんオーストリアも、お金がないと一切行えないという考え方で、もちろん企業は収益が大事ですので、だから、ほかの方法があるのではないかとこのことを考えるわけなんです。

つまり形式と、まずリクリエーションのファンクションが大事だと思えば、では自動販売機は、こんな醜いのよりも、何か考えましょう、デザインを変えましょうと。何か木材のカバーをしましょうとか、電源を延ばすとか、せつかくだから例えば地域暖房、地域冷房をつくれれば、ではその電子ケーブルを地下に設置しましょうというのが、当然のことだと考えています。これが一つ大事なことなんです。多面的なファンクション。

あともう一つ大事なのが、教育なんです。私が外務省の者ではなくて、本当は経済産業省の者なものですから、だからもともとはオーストリアの企業をサポートしている活動が、本当は専門なんです。最初、10年前にこういったバイオマスとか林業、汚水の機械を紹介したりで始まったんですけれども、これで気づいたのが、補助金を出して購入して、その後、本当に良かったのか、私がここに長年いたのが足跡として残るかなと思っていました。その頃、たまたまオーストリアの森林研修所に行きまして、そこで生まれ変わりみたいな感じで光を見て、これは絶対、日本人に味わわせたいと。でも、もちろんハードルは高い。もちろん言葉の問題もあるし、教科書のこともあるし、そのテーマごとの問題もあるし、これを全部ウィーンが協力をしながら、日本人向けの講座をオーストリアにいっぱいつくったんです。これが長野県の方々もたくさん来られたんですけれども。

私がすごく気づいたのが、技術ではなくて、やはり人間が中心なんです。つまり、収益を上げると事故が下がるというのをグラフの中で一番理想な模様という感じなんです。もちろん木をたくさん切れば、伐採する、木が倒れるから事故が起こるのがもちろん多くなりますから、これどうやって死亡事故とかを削減するのはやっぱり教育が重要です。これが、林業のことは建設関係と同時に、やっぱり死亡事故が多いので、それは当然のことながら、いろいろな強いヘルメットとか、そういう服だとかがありますけれども。

例えば観光の中で、私がちょっと調べてみたんですけれども、ハイキングとトレッキング、みな簡単だと思っていますから、ただ登山靴を持って、かわいいお姫様を山に連れていくことはそういうのではなくて、やっぱりトレッキング、ハイキングとか、それも死亡事故があるわ

けなんです、風がなくても。

ですから、オーストリアで私は調べてみましたので、こういった、例えばインストラクターとかガイドさんがみんなすごく能力が高くて、国家試験で、ちょっとコスト的にどのくらいかかるかといったらびっくりしたんです。やっぱり50万円から60万円くらいかかるんです、そういう免許をとるために。厳しい国家試験なんですけれども。確かに、こういう環境の面だとか、エコツーリズムだとか、きちんとした、ビギナーじゃなくて、幼稚園のレベルではなくて、やはりきちんとした専門家を育てなければいけないんです。そこでやっぱり教育のことは、それだけはケチらないように、みんなにお願いしたいと思っています。これが基本的にオーストリアの一つのすごい強い点なんです。

やはり、この教育、専門教育、多面性と専門性なんです。あとは相互性、あともう一つは、私がオーストリアに行ったり帰ったりもしますから、すごく印象が強いのが、やはり民官学、すごくつながりが深い、交流が深い。つまりオーストリアの林野省に働く人がみんな、例えば動物大学だとか、専門、その林業の専門学校から出た者なんですけれども、この最先端のウィーンの動物大学を出た知識は、これが全て市民研修所に流れていって、そして即、若者に伝わるんです。これがすごく大事なんです。

オーストリアは小さい国ですから、割と、操りやすいといいたましようか、という感じなんですけれども、距離はそんなに遠くないけれども、確かに何かをやろうと思ったら答えがすぐ出る。州政府でも、市町村でも、県でも省でも、科学者とか民間企業とか、みんなつながりが深い。そうしないと、さっきおっしゃったように、今、複雑な時代になりましたので、複雑なソリューションじゃないと複雑な問題が解決できないので、そこでやっぱりオーストリアはすごく力を入れています。つまり山が、八百万の神々からもらったものですから、これを守るべきというような課題でありますので、では、我々は何ができるのか、やはり知識を深める。やっぱり力をもっと強くするというような、我々人間としてできます。これがやっぱりオーストリアの政府として法律にまでなっていますので、だからこそ、この急峻な斜面での豊かな林業もできますし、小さい国でも結構、環境の収益も非常に高いというのを、全部、人間を中心にするというような対策をとっています。

#### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

ありがとうございます。残り時間が本当にもう少しなんです。このメンバーを見てもらえばわかりますけれども、いくら話をしても終わらないぐらいの話ですし、中にたくさん引き出しがあっておもしろいんですけれども。

実は今日は県政タウンミーティングを兼ねてもいますので、ここで皆さんからちょっとご意見を、知事に対する質問でも結構ですし、ご意見でも結構ですので、いただければと思います。

ただ、これ実はタウンミーティングということですが、もし差し支えなければ、どこにお住まいで、どんなお仕事でということを、ホームページではもちろん名前とか、先ほども言ったように公表しませんけれども、もし差し支えなければお名前をおっしゃっていただいて、簡潔にお願いできればと思います。

手を挙げていただけますと、先ほどのオトメ☆コーポレーションがマイクを持って、お近く



まで伺いますので、どうぞ遠慮なく挙手をいただければと思います。どなたか。後ろの方、どうぞ。オトメさん、お願いします。ちょっと遠いですが、右の奥ですね。

#### 【参加者 A】

山岳環境魅力発信フォーラムということで、山岳、岳がつくとかなり上のほうを大事に大事に守らなければいけない自然というイメージになるかもしれないんですけども。第1部でオトメ☆コーポレーションさんが体験されたように、林業とかジビエとか、いわゆる裏山的なところでの活動もとても有意義だと思うので、観光資源として高い山、きれいな、都会とはかけ離れたきれいな自然というだけではなくて、今、問題になっている利用し過ぎて困るという高山ではなくて、利用しなくて困っている問題が生じているところ、それを徐々に利用することも高山を守ることに結局、つながるのではないかと思います。

そういう自然とどうつき合っていくのかという、幾つかの階層に分けるような、エリア分けの概念、例えば県がいきなり地図で引くというような上から下へではなくて、そういう地域でそういうことを考えていくような、どんなふうにご利用したらいいのかという概念をこれからつくっていったらいいのではないかと思いますけれども、いかがお考えでしょうか。

#### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

山というのは山岳だけではなくて、また里山も含めた山ということで、長野県は全部山だという概念で山の日を、実は懇話会のときでも議論したんですけども、知事、いかがですか、今のご意見に対して。

#### 【長野県知事 阿部守一】

全くそのとおりだと思います。私ども、先ほどからオトメ☆コーポレーションの皆さんにいろいろ体験していただいているように、本当の高い山の一部の自然環境を守りましょうという話だけではなくて、里山まで含めて、どうやって生かしていこうかということで取り組んでいます。

例えば、森林セラピー基地。これは長野県に一番多くありますが、森の中に入ってもらって、心の癒し効果、そして木曾地域などでは、木曾病院とも連携してそうした取組もしていますし、さっきのジビエであるとか、あるいは木材の利用とか、そういうものについては、私は、さっき鈴木先生言っていただきましたけれども、長野県は、これ林業関係者には怒られてしまうんですけども、森林県だけ林業県ではないということをずっと言ってきたんですね。今、やっとならば、森の活用、森林の活用というところにも相当、方向性が見えてきていると思いますので、そうした方針で、これからはもっと進めていきたいと思っています。

特に里山の整備には、県民の皆様方から森林づくり県民税、個人の方は年間500円いただいて取り組んでいますので、皆さんにまたきちんとフィードバックできるように有効に使ってきたいと思っています。

#### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

ありがとうございます。ほかにもございますか。では前の方、どうぞ。

### 【参加者B】

初めて参加したんですが、私、カルチャーで「志賀高原を楽しむ会」というところに入って、志賀高原へ何度か行って見て、それで感じた感想なんですけれども。

今の話の中で、自然と観光、どうあるべきか。それから目で見て素晴らしいと感じなければいけないと言われたので、私も本当にそうだと思うんですけども。

志賀高原の中に、いろいろ山へ上がってみると案内板などがあるんですが、あちこちあると思うんですけども、そういう案内板の前に、みんな木が大きくなって実際にはどこも見えないというところが各所にあります。

違う山に行っても、ここは景色はいいんだけど、この木がなければすごくいいんだというところはかなりあると思うんです。やはり、せっかく山に登ったんですけども、そういうきちんと整備されていないために環境が守れないという部分があると思うんですけども、そういうものを、ひとつ考えていただければと思います。

### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

知事、いかがですか。

### 【長野県知事 阿部守一】

自然公園のあり方は、今、お話しいただいたように、実はいろいろ課題があると思います。

笹谷さんは、前、農水省にも、環境省にもいらっしゃったということなので、ちょっと申し上げづらいところもありますけれども。

例えば国立公園とか、もっと使うべき、使えるようにしたいと、あるいは、ここの木は邪魔だなと思って、どっちかというやっぱり自然保護優先で、区域指定されていると全く手を入れてはいけないみたいなエリアもあるんです。

もちろん自然を守る上でそうした感性も大事なんですけれども、他方でやっぱり利用をどうするかと、そして、例えば私は長野県の山岳観光というのは、これから世界の山岳観光地と競争していかなければいけないと思いますので、そういうことを考えるともう少し使えるように、有効活用できるようにしなければいけない部分もあるのではないかと。常に多分、この自然をどう守るかということと、やっぱりどう生かすか、どう景観をよくするかみたいな話というのは、二律背反な部分があります。

ここは、さっき言いましたけれども、もう少し関係者の間でしっかり議論をしていかなければいけないなど。上から目線でこうだ、ああだという話もあって、やっぱり守らなければいけない部分というのはどうしなければいけないのか。そして、ここはやっぱり人はもっと入ったほうがいいのか、人が入れるようにするには、ではこういう工作物も必要最小限のものは設置したほうがいいのかみたいなことを、山域ごと、地域ごとにしっかり検討できるような体制をつくっていかねばいけないと思いますので、さっきちょっと言いました、山域デザインみたいなことについては、そうしたことも含めて一緒になって考えられるようにしてい

きたいと思っています。ありがとうございます。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

ありがとうございます。それではもうお一人だけ、真ん中の方、どうぞ。

**【参加者C】**

今日、お越しになっている方を見ても、お子さん連れが少ないわけです。それで、今後、自然や環境の関係で、子どもの教育にゆとりを持ってこういったことを地道にやっていると、やはり長野県で、この大人社会だけでやっても、継続性というのは難しいと思うわけです。

それで、私、いつも考えていることが、環境関係でも、昔、親から教わったのは、汚いから早く掃除をしてきれいにしなさいとか、汚いものはきれいにしろとか、いろいろありましたけれども、今、みんな見れば、きれいなものばかりなんですよ。それで、子どもたちにやはりきれいなものをきれいにして継続させようというようなことを中心に、それぞれの自治体とかそういうところで、子どもに小さいときから環境に対して、もっと長野県らしいものを植えていってほしいと思います。その点を、ひとつよろしくお願いします。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

知事、お願いします。

**【長野県知事 阿部守一】**

教育、大変重要だと思います。先ほどフィノキアーロさんから、専門性の高い教育というお話しされましたし、今、お話しいただいたのは、県民に広くもっと自然に親しむ教育というお話だと思います。

先ほども申し上げたように、一つは、幼児期から自然に親しんでもらうように信州型自然保育の認定を行っていて、そういうものを意識的に、今まではそれぞれの保育園とか、そういう人たちが、いわば自主的に頑張っていたんですけども、やっぱり長野県の強みとして、そういうものはしっかり広げていこうと思っています。

それからもう一つ、これは私は昨年の選挙のときに、教育についてはグローバル教育とICT教育がこれから大事だということと、もう一つ、「信州学」というのを入れていこうと。「信州学」というのは、やっぱりグローバル社会になればなるだけ、やっぱり自分たちのこの長野県の良さとか、強みは一体何なのかということを知らなければいけないだろうと。

何というか、文部科学省の統一的な学習指導要領を粛々と準じてやっていて、東京の子ども、長野県の子ども、基本的に同じことをやっているわけですが、それだけだとやっぱりこれからはいけないと思いますので、そういう意味で、今、教育委員会とも相談して、長野県の子どもをもっとしっかり学ぶカリキュラムを考えようということを進めています。

そういう中で、長野県の強みの一つはやっぱりこの自然環境でありますから、そういうことについても、もっともっと子どもたちが学んでもらえるようにしていきたいと思っています。

それからもう一つ、今、県として進めていることが、信州型コミュニティスクールというの

があります。コミュニティスクール、私どもが目指しているのは、もっと学校の運営であったり、学校の行事に地域の人たちに参画してもらおうと思っています。平成29年までに全ての小中学校を信州型コミュニティスクールにしようと思っています。

そういう中で、長野県は地域の人たち、例えば林業に携わっている人たちとか、農業に携わっている人たちとか、あるいは登山に係わっている人たち、そういう人たちは大勢いますので、そういう人たちが学校に入って子どもたちに身近に自分たちの経験を話してもらう、あるいは学校運営で、今、長野県は学校登山、さっき話がありましたけれども、そういうことも行っていますけれども。そういうものにも地域の人たちにもっともっと関わってもらい仕組みをつくっていききたいと思っていますので、そういう中で、多くの子どもたちが、何というか、学校という建物の枠組みの中に押し込められるのではなくて、長野県の素晴らしさをもっと知って、そして長野県の地域の皆さんがもっと学校に入る中で、この長野県の強みである自然環境とか景観の素晴らしさとか、そういうものを伝えていってもらいたいと思います。

是非これは、私どもはそういう仕組みをつくっていかうということで、小中学校はどうしても市町村立なので、今、市町村にお願いしていますので、是非、今日お見えの皆様方は、自分の身近な学校に是非コミットしていただいて、そういうお考えなり思いなりをもっともっと伝えていただければありがたいと思います。よろしく申し上げます。ありがとうございます。

#### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

ありがとうございました。まだまだご意見、ご質問があろうかと思えますけれども、残念ながら時間でございますので、そろそろ閉めたいと思います。

今日の時間、なかなかとれなくて、いろいろな意見があるのは承知しているんですが、十分、皆さんのご意見もお聞きできないし、今日の登壇者の皆さんからももっともっとお話しいただきたいことがありますけれども、残念ながらということでございます。

こういった会議を開くことは大事でございますけれども、是非皆さん、今の時期はちょっと冬で雪があって大変でしょうけれども、是非また暖かくなったら、お子さん、それから年配の方もおられますが、是非お孫さんを山へ連れていっていただいて、皆さんがこれまで経験を積まれたことを、若い世代に、是非山でお伝えいただければと思います。そういった思いを込めて今日の会を閉じたいと思います。

最後に、知事にたくさんお話ししていただきますけれども、まとめとして一言だけ、お願いしたいと思います。

### 3 知事 結びのあいさつ

#### 【長野県知事 阿部守一】

どうも、今日は皆さんありがとうございました。パネリストの皆さんも大変ありがとうございました。そして会場の皆様方もご協力ありがとうございました。

私は、今日、お話しいただいた中で幾つか、私もしっかり頭に置かなければいけないという

ことがありました。一つはやっぱり次の世代、子どもたち、あるいはその次の世代、未来の世代のことをしっかり考えながら施策を進めていかなければいけないということ。それから、これは私がかねてから思っておりますけれども、今日お集まりの皆さんも含めて、企業、県民、県外の企業とか県民の人たち、長野県の山を愛する人たち大勢いますから、そういう人たちも含めてのパートナーシップをしっかりとつくっていくこと。

それから、先ほどフィノキアーロさんにお話しいただきましたけれども、教育、人づくり、専門的な人材をつくと同時にやっぱり産学官の、日本は産学官の連携とすぐ言ってしまって、あまり私はそういう言い方は表面的でよくないなと思っているんですけれども。人がもっと交流し合っつつながりあう中で、方向性をしっかり打ち出していくと。今までの常識とか慣例に捉われることなく、何に価値を優先するかということを決めて、その実現に進んでいくということが重要だと思います。

私自身も、そういう意味で、今日いろいろ勉強させていただきましたし、これからの現実の県政にしっかりと生かしていきたいと思います。

会場の皆様方も、それぞれ皆さんの中で感ずること、あるいは気がついたこと、いっぱいあったんじゃないかと思います。是非それをそれぞれの地域、それぞれの活動にさらに生かしていただければ大変ありがたいと思います。

鈴木先生を初め今日のパネリストを務めていただいた皆様方に改めて感謝を申し上げて、私のまとめのあいさつといたしたいと思います。ありがとうございます。

#### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

それでは、県政タウンミーティングを兼ねましたトークセッションを閉じたいと思います。改めて、知事を初め寺島さん、笹谷さん、それからフィノキアーロさん、そしてオトメ☆コーポレーションの皆さん、そして最後に、今日は雪の中おいでいただきました皆様に感謝いたしまして、この会を閉じたいと思います。

では、司会にお返しします。

## 4 閉 会

#### 【総合司会】

ありがとうございました。それでは、皆様、ご降壇になります。どうぞ皆さん、大きな拍手でお送りくださいませ。ありがとうございました。

会場の皆さんからも大変貴重なご意見をいただきまして、大変有意義なトークセッションになったのではないかと思います。私も大変勉強になりました。ありがとうございました。

以上をもちまして、信州山岳環境魅力発信フォーラム第一部は終了となります。